



ドバイ万博(ドバイ国際博覧会) オープニングセレモニーで披露されたプロジェクションマッピング

Photo courtesy of Expo 2020 Dubai

USHIO

第60期
中間

株主通信

[2022年4月1日～2022年9月30日] 2022年12月発行

CONTENTS

- 2 Ushio Now!
- 4 社長メッセージ
- 6 事業の概況
- 8 特集
- 10 TOPICS
- 12 決算の状況
- 14 株主さまとともに

Ushio Now! ウシオの今

ウシオとは...

1964年に産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、新光源の開発、独自の光学技術の開発・応用に努め、ユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する企業へと発展してきました。その光技術は、「あかり」の領域だけでなく、産業や科学技術の先端分野で「エネルギー」として幅広く利用され、数多くの「世界シェアNo.1」製品を誕生させるとともに、今日では、バイオや農業、医療、環境をはじめとした、新しいビジネスフィールドを開拓しています。

ウシオのマーケット

Industrial Process

半導体、フラットパネル、精密機器、電子部品、光化学、印刷、産業機器など

Visual Imaging

デジタルシネマ／3D、プロジェクション・マッピング、バーチャルリアリティ（VR）／シミュレーション、監視／制御用映像表示システム、プロジェクター用光源、一般／商業施設用照明、景観照明・演出、ステージ／スタジオ照明・演出、オフィス・ドキュメント用光源など

Life Science

医療、自然／衣食住環境、農業、セキュリティ、エネルギー、宇宙開発など

業績ハイライト（2022年4月1日～2022年9月30日）

売上高

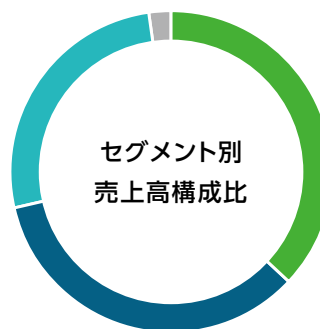
879億円

（前年同期比売上高 715億円）

営業利益

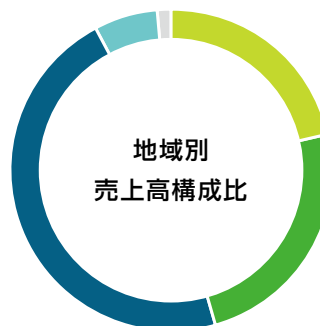
101億円

（営業利益 65億円）



💡 光源事業	37.0%
🔍 光学装置事業	34.4%
📺 映像装置事業	26.5%
🔮 その他	2.1%

本資料では、切捨てによる億円単位で表記しています。



🇯🇵 日本	21.5%
🇺🇸 北米	24.3%
🌏 アジア	46.5%
🇪🇺 欧州	6.5%
🌐 その他	1.2%

	光源事業	光学装置事業	映像装置事業	その他
	2021.9 ▶ 2022.9	2021.9 ▶ 2022.9	2021.9 ▶ 2022.9	2021.9 ▶ 2022.9
売上高	280億円 ▶ 325 億円 ㊦	244億円 ▶ 302 億円 ㊦	176億円 ▶ 233 億円 ㊦	14億円 ▶ 18 億円 ㊦
セグメント 利益・損失	45億円 ▶ 51 億円 ㊦	24億円 ▶ 45 億円 ㊦	△4億円 ▶ 2 億円 ㊦	0億円 ▶ 0 億円 ㊦

※ 第2四半期累計。また売上高は外部顧客への売上高を記載しています。

光源事業

露光用UVランプは、液晶パネルの巣ごもり需要が一巡したことで液晶向けの販売が減少したものの、半導体向けの高稼働継続による販売増加と為替の円安効果により増収となりました。シネマプロジェクター用ランプ、データプロジェクター用ランプ、固体光源、OA用ランプなどは新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の影響からの回復により販売が増加しました。

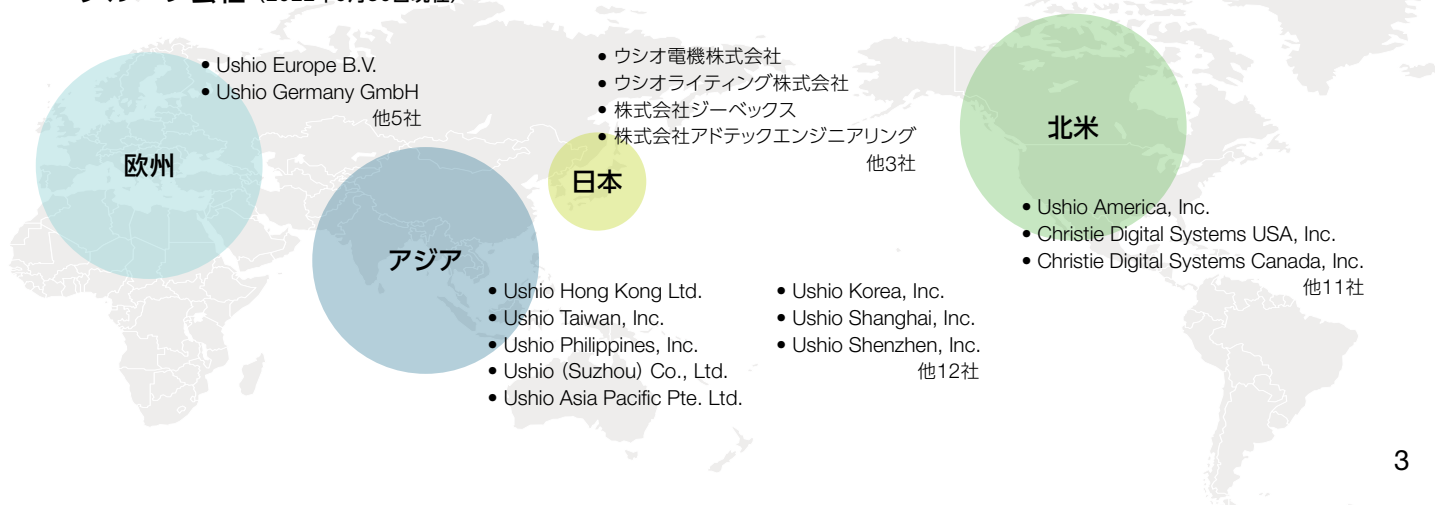
光学装置事業

5Gの実用化やIoT・AI進展に伴うデータセンタ向けサーバー需要の高まりなどから、最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置及びダイレクトイメージング露光装置の販売が大幅に増加しました。各種露光装置等の稼働台数増加に伴い、保守メンテナンスも堅調に推移しました。

映像装置事業

シネマ分野では、全世界の映画館再開・稼働回復が緩やかに進み投資意欲が戻りつつも、部材不足の影響によりデジタルシネマプロジェクターの販売は減少しましたが、為替の円安効果により増収となりました。一般映像分野においては、イベント再開等により欧米市場を中心に緩やかな需要の回復が進み、映像関連装置の販売が増加しました。

グループ会社 (2022年9月30日現在)



社長メッセージ

2020年から積み重ねてきた
「基礎固め再挑戦」を当期に完遂し、
次のステップへと進んでまいります

代表取締役社長

内藤 宏治



2023年3月期第2四半期の業績及び 中期経営計画3年目の取り組みについて

中期経営計画(以下、中計)3年目となる2023年3月期(以下、当期)の第2四半期業績は、売上高は879億円(前年同期比22.9%増)、営業利益は101億円(前年同期比54.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は95億円(前年同期比46.2%増)となりました。

エレクトロニクス分野では、有望製品と位置付けている最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置及びダイレクトイメージング露光装置が、IoTや5G等の進展に伴う需要増加を背景に着実に販売台数を伸長させました。さらに最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置の今後の需要増加に対応するため、生産能力を2025年3月期に向け2倍へ拡大してまいります。また、前期に好調に推移した露光用UVランプは、巣ごもり需要を背景とした液晶パネルディスプレイ向けの需要が一巡したことによる生産調整の影響で販売が減少したものの、半導体関連向けの需要は、引き続き高水準となりました。加えて為替による円安効果もあり増収となりました。

ビジュアルイメージング分野では、全世界の映画館が新型コロナの影響により休止等を余儀なくされたものの、各国の経済活動再開などにより、営業再開や稼働回復が進んだことから、シネマプロジェクター用ランプの販売が増加しました。その一方で、デジタルシネマプロジェクターは、部材不足問題が長期化している影響により販売が低調に推移しました。また、シネマ以外の一般映像関連装置は、各国でイベント等の再開による映像演出機会の増加により、販売は増加しました。

引き続き、半導体等の部材不足、ロシア・ウクライナ情勢等の影響によるエネルギー・原材料価格の上昇や為替の円安進行など先行き不透明な環境にありますが、今後の動向に注視しつつ、中計の最終年度となる今期は、重点施策である長期的な視点での価値創造に向けた基礎固め再挑戦を完遂させることで、中計の野心的目標である営業利益率10%超の達成に向けて邁進してまいります。

「統合報告書(Ushio Report 2022)」発行について

10月3日に「統合報告書(Ushio Report 2022)」を発行いたしました(詳細はP11のトピックページを参照ください)。今回は、我々が創業以来、光のソリューションカンパニーとして社会的課題の解決や、世の中の技術革新に貢献してきた過程や、磨き上げてきた「強み」を明らかにし、今後、それらの「強み」を活かしてどのように持続的に企業価値を向上させていくのか、その方向性や取り組みを整理し記載しております。また、昨年の「Ushio Report 2021」にて紹介した2030年の目指す姿(長期ビジョン)を実現するための、ESG経営を根幹とする重要課題「5つの経営のフォーカス」についても、その取り組み内容、進捗状況を記載しております。ウシオが将来に向け持続的に成長していく価値創造ストーリーをステークホルダーの皆さまにご共感いただけますと幸いです。是非、ご一読いただき、忌憚のないご意見をいただければと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

事業の概況

事業環境

エレクトロニクス分野

IoTや5G等の進展を背景に、高稼働が継続したものの、一部調整の動きあり
フラットパネルディスプレイ (FPD)
液晶パネルの集ごもり需要一巡により、各パネルメーカーで稼働率調整
半導体・電子デバイス
IoTや5G等の進展で、高稼働かつ設備投資継続も、最終需要減速により一部調整
ICパッケージ・プリント基板等
IoT、5G等の進展に伴い需要増加及び技術革新により高稼働かつ設備投資堅調

ビジュアルイメージング分野

新型コロナの影響から回復傾向
シネマ分野
中国市場等新型コロナ政策の影響で低調なエリアがあるも、世界的には緩やかな稼働回復が継続
一般映像分野
イベント等が規制解除により増加し、投資が回復傾向
OA分野
セットメーカーで部材不足の影響が一部継続も、OA機器需要は回復傾向



光源事業

放電ランプ／LED・LD

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源
- シネマプロジェクター用、データプロジェクター用、照明用及びその他産業用光源

ハロゲンランプ

- OA機器用光源
- 産業用ヒーターランプ
- 照明 (商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など)



当第2四半期の業績

● 放電ランプ

UVランプは、液晶パネルの需要が一巡し販売が減少したものの、半導体、電子部品向けはIoTや5G等の進展により堅調に推移
シネマプロジェクター用ランプ、データプロジェクター用ランプは、新型コロナの影響から緩やかに回復、販売は増加

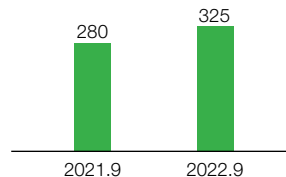
● ハロゲンランプ

OA用ランプは、需要が回復したものの、セットメーカーの部材不足の影響を受け微増

半導体熱処理用ランプは、半導体需要増加により、販売は増加

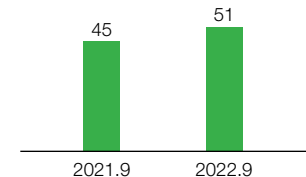
売上高

(億円)



セグメント利益

(億円)



下期の見通し

UVランプは、液晶パネルの稼働調整の継続に加え、半導体は一部の需給調整が入る見込みであり、下期需要は減少傾向

シネマプロジェクター用ランプは、ゼロコロナ政策で稼働が低調な中国市場を除き、緩やかな回復傾向が継続

Care222® (抗ウイルス・除菌用紫外線技術) 関連製品は、ウイルス対策ニーズの高い医療機関中心に販売を強化

売上高*

(億円)

2023年3月期通期予想	上期実績	進捗率 (%)
630	325	51.6

* 外部顧客への売上高を記載しています。



光学装置事業

- 半導体、フラットパネルディスプレイ（FPD）、電子部品製造用各種光学装置（露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など）
- EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源
- 紫外線治療器など医療機器



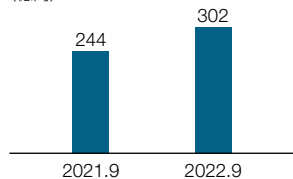
当第2四半期の業績

最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置、ダイレクトイメージング露光装置の販売が増加

EUV光源のメンテナンスは増加も、調整局面で光源本体販売は減少
各種光学装置の稼働台数増加に伴い保守メンテナンスも増加
液晶関連装置は、需給調整の動きに伴い減少

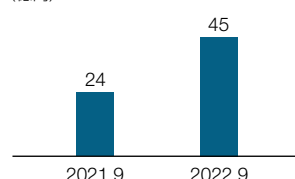
売上高

(億円)



セグメント利益

(億円)



下期の見通し

IoTや5G等の進展に伴いICパッケージ・プリント基板市場の成長は継続し、装置需要も堅調な見込み

EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源の販売は、2023年3月期はTCO低減要求や部材納期の長期化に伴い調整局面。中長期的には市場成長する見込み

売上高*

(億円)

2023年3月期通期予想	上期実績	進捗率(%)
550	302	55.1

* 外部顧客への売上高を記載しています。



映像装置事業

- デジタルシネマプロジェクター（DCP）
- 一般映像用デジタルプロジェクター、コントロールルーム、シミュレーター、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステム、プロジェクション・マッピング用プロジェクター



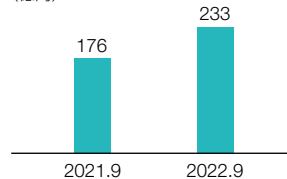
当第2四半期の業績

シネマ分野は新型コロナの影響から回復も、部材不足によりデジタルシネマプロジェクターの販売は低調（円安効果により増収）

一般映像分野は、欧米市場を中心にイベント等が再開したことで需要が堅調に回復、関連装置の販売が増加

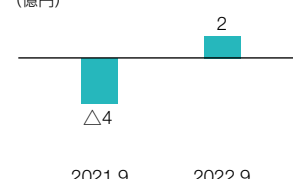
売上高

(億円)



セグメント利益・損失

(億円)



下期の見通し

シネマ、一般映像分野ともに全世界的に新型コロナの影響から緩やかに回復も、シネマ分野における中国市場のゼロコロナ政策やコンテンツ規制による低稼働長期化が懸念。生産面では部材不足の影響も継続の見込み
なお、デジタルシネマプロジェクターの置き換え需要は、2024年3月期以降に本格化する見込み

売上高*

(億円)

2023年3月期通期予想	上期実績	進捗率(%)
480	233	48.6

特集

～光で「魅せる」～

ダイナミックな 映像ソリューションで 感動と体験の共有を

プロジェクションマッピング事例

ドバイ万博(ドバイ国際博覧会)オープニングセレモニー

2021年9月に開催されたドバイ国際博覧会の開会式において、ウシオの映像装置事業における主要会社クリスティ・デジタル・システムズ(以下、クリスティ)のプロジェクターがアルワスルドームの周りに252台設置され、すべてのパフォーマンスがソフトウェアによって遠隔管理されながら、壮観な没入型プロジェクションマッピングが行われました。万博という大きなイベントで当社技術が数多く使用されたことで、今後、国際規模のイベントでの採用機会の拡大が期待されます。

皆さんは、映画館やテーマパーク、イベントなどで大迫力の映像演出をご覧になったことが、一度はあると思います。

ウシオは、テーマパークや商業施設、公共施設など人が集まる空間で、光で「魅せる」つまり、映像ソリューションを通じて、人々が「感動」や「体験」を共有するという価値を提供しています。世界の経済や社会に大きな影響を及ぼした新型コロナから、賑わいが戻りつつあり、人々の「ダイナミックなストーリー及び映像表現によってもたらされる豊かさを一緒に体験したい」という欲求は、これからも変わることがありません。

映像装置事業

セグメント別売上高

233億円

セグメント別構成比

26.5%

映像装置事業が目指すVision



便利・快適



感動・共有
映像・照明技術を通じ、
人々に感動・幸福を
提供します
Visual Imaging

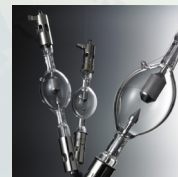


安心・安全

主要製品



デジタルシネマプロジェクター
世界シェア**35%**



シネマプロジェクター用ランプ
世界シェア**65%**

どんなところでウシオの映像装置は使われている？

映画館や国際規模のイベント、テーマパーク、商業施設など様々な場所で使われています。ウシオは映画館向けデジタルシネマプロジェクターの世界シェアが35%。シネマプロジェクターに組み込まれているシネマプロジェクター用ランプで65%の世界シェアを持っています。

今後の取り組みと展望は？

映画館では、全世界の20万スクリーンに設置されているプロジェクターの寿命対応による更新が2023年から本格的に始まる見込みです。また、映画興行の無人化・省人化ニーズの高まりもあり、ウシオはこれらのニーズに対して、製品ラインナップ拡充及びサポート・サービスを備えたトータルソリューションで応えていきます。

また映画館以外でもアミューズメントパークや国際的なイベント、ライブなど大空間における映像演出の需要は年々増えており、最先端RGBレーザープロジェクターの提供だけでなく、様々なコンテンツやアプリケーションに対応した保守サービスやソフトウェアを強化することで、高付加価値なトータルソリューションを提供し、訪れる人々を圧倒するビジュアル体験を生み出し、感動・共有を世界にお届けしていきます。

シネマ事例

グランドシネマサンシャイン 池袋(東京都豊島区)

「グランドシネマサンシャイン 池袋」は、国内最大規模の「IMAX®レーザー／GTテクノロジー」シアターと体感型アトラクションシアター「4DX®」と3面上映システム「ScreenX」が融合した「4DX SCREEN」に加え、館内すべてのスクリーンにRGBレーザープロジェクターを導入し、最新の上映環境を備えた日本屈指のシネマコンプレックスです。ウシオのグループ会社であるジーベックスは館内全12スクリーン中、11のスクリーンにクリスティ製RGBレーザープロジェクターを納入(4K×11台)し、スクリーンや音響関連機器、シネマサーバーをはじめとする上映システムの構築、販売、施工まで担当しています。

クリスティのRGBレーザープロジェクターは、従来以上の幅広い色域を再現できることに加え、高いコントラスト比で明暗のある鮮明な映像を映し出すことができ、さらなるリアリティ感や没入感を演出しています。



④ プレミアムシアター
「BESTIAシアター」



④ 4K RGBレーザー
プロジェクター



④ 「グランドシネマサンシャイン 池袋」外観
(グランドスケープ池袋)

2022年6月以降のニュースを サマリーで紹介します。

6月

- ・抗ウイルス・除菌用紫外線照射装置「Care222® iシリーズ」、大手家電量販店で取り扱いを開始
- ・「SNAMサステナビリティ・インデックス」構成銘柄に11年連続で選定

7月

- ・当社完全子会社の株式会社のユーアイエスを、2022年9月30日付で吸収合併することを決定

8月

- ・「FTSE4 Good Index Series」に19年連続で選定

9月

- ① リージョナルフィッシュと資本業務提携を締結
- ② 低濃度の亜酸化窒素(N_2O)ガスとメタン(CH_4)ガスを分解・無害化できる技術を開発
- ・222nm紫外線を室内で照射した際の眼の長期安全性と病原微生物不活化効果についての研究結果を発表
- ・Care222®搭載ユニットが、第13回アジアライティングカンファレンスで「イノベーションプロダクト賞」を受賞

10月

- ③ 「統合報告書(Ushio Report 2022)」を発行
- ・クリスティ・デジタル・システムズがCare222®搭載製品「CounterAct™」シリーズの新製品を販売開始
- ・皮膚科向け紫外線治療器シリーズの最新機種「セラビーム® UV308 mini LED」の販売を開始
- ・大幅なコストダウンを実現したハイパワー青色レーザーモジュールの販売を開始
- ・アクリエひめじ(兵庫県姫路市)にウシオの抗ウイルス・除菌用紫外線照射装置「Care222® iシリーズ」15台を寄贈

PICK UP

1

リージョナルフィッシュと資本業務提携を締結

当社は、リージョナルフィッシュ株式会社(以下、RF社)の第三者割当増資を引き受け、同社との資本業務提携を締結しました。

RF社は、京都大学及び近畿大学などの水産物の品種改良技術シーズをコアとして設立されたスタートアップ企業です。オープンイノベーションを通じて、超高速の品種改良とスマート養殖を組み合わせた次世代水産養殖システムを作り、「SDGs2番: 飢餓をゼロに」や「SDGs8番: 働きがいも経済成長も」、「SDGs14番: 海の豊かさを守ろう」の達成を目指しています。

ウシオは今後、海洋資源の保護、地球規模の人口増加に伴う食糧問題にも、「光」で貢献していきます。

USHIO

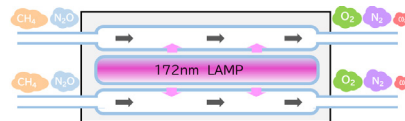


PICK UP

2

低濃度の亜酸化窒素(N_2O)ガスとメタン(CH_4)ガスを分解・無害化できる技術を開発

地球温暖化係数がそれぞれ二酸化炭素の300倍、25倍と非常に高い亜酸化窒素(以下、 N_2O)ガスとメタン(以下、 CH_4)ガスは、下水処理や医療麻酔、廃棄物処理などの現場で放出されています。特に N_2O は低温触媒での分解や放出されたガスの捕集が難しく、現状ではその対策が困難な状態です。ウシオは、これらの N_2O と CH_4 の分解方法について、創業以来培っていた紫外線を発するエキシマランプの技術を応用展開することで、これらの2種類のガスを低濃度にもかかわらず、1プロセスで分解・無害化できる技術を開発しました。今後、実用化に向けさらに研究・開発を進め、2025年に実証試験を開始し、2030年の事業化を目指します。ウシオは今後、地球温暖化対策においても、社会実装を通して「地上炭素ネットゼロと、人々の幸せを両立できる世界」に「光」で貢献してまいります。



波長172nmの紫外線を発するエキシマランプを用いて、亜酸化窒素(N_2O)・メタン(CH_4)と空気を混合させたガスに照射することで、 N_2O は70%程度、 CH_4 は100%の分解率を達成できることが確認されました。

PICK UP

3

「統合報告書(Ushio Report 2022)」を発行

今回の「統合報告書(Ushio Report 2022)」では、創業時から現在に至るまで受け継いできたウシオの理念や文化、それらを土台として磨き上げてきた「強み」を明らかにしています。2030年の目指す姿である「真の『光』のソリューションカンパニー」の実現に向けて、「強み」を発揮し続けるための新たな課題を克服していくことが、ウシオの「光」で未来の社会課題を解決していく道筋になると考えています。また、この特定した「強み」と事業戦略や技術の応用発展及び重要課題である「5つの経営のフォーカス」への取り組みなどとの関連性が整理され、より一貫性があり説得力のあるウシオの持続的な成長ストーリーを示すことができたと考えています。これらのストーリー構築においては、社長をはじめとした経営陣が、統合的思考のもとで議論を重ね、深くコミットした一冊となりましたので是非ご覧ください。



当社ホームページよりご覧いただけます。

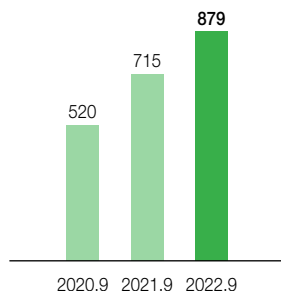
https://www.ushio.co.jp/documents/ir/library/ushioreport/ushioreport_2022_j.pdf

USHIO

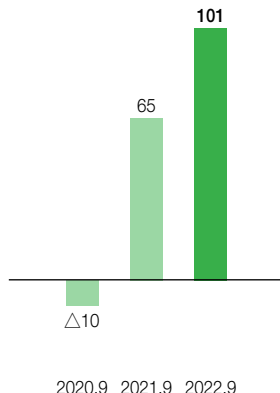
決算の状況

売上高・損益の推移 (億円)

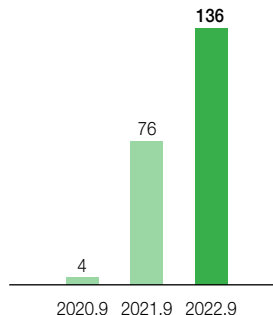
● 売上高



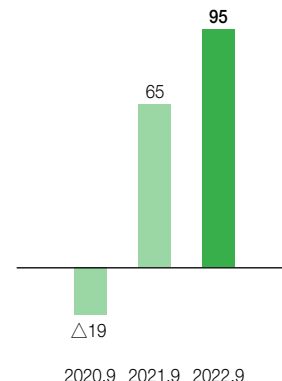
● 営業利益・損失



● 経常利益



● 親会社株主に帰属する 四半期純利益・損失



💬 CFOからのメッセージ

2021年3月期からスタートした当中期経営計画(以下、中計)も3年目を迎えました。中計最終年度となる2023年3月期は、前期に計画を大きく上回った営業利益率8.8%から、さらに1.2ポイントの改善となる10%、営業利益は前期比30%増益となる170億円を計画しております。

中計最終年度は、これまでの2年間の方向性から大きな方向転換はないものの、中計策定時の想定を超える部材不足、資材や物流費高騰等の課題に直面していることから、グループ連携による部材調達、サプライチェーン対応及びグローバル販売対応についてより一層取り組みの強化を行っております。また、生産面においては、グループ横断での生産効率化を実現するために生産本部を新設し、生産や調達のさらなる効率化、適地生産、生産地統廃合を進め、多様化するリスクのモニタリングを強化し連携するなど「束ねる戦略」を推進し、業績へのインパクトを最小限に

留めていく考えです。「防ぐ戦略」では、基盤事業を中心とした構造改革の完遂に加え、競争優位性維持のための開発費などに資金を投じてまいります。また、「攻める戦略」では、当中計や2024年3月期を初年度とする次期中計の成長ドライバーとなる有望製品への投資を継続するとともに、2030年のVisionを見据え、必要な人材や技術、アプリケーションノウハウの獲得を通じた新たな事業創出に向けた投資をしていく考えです。

株主還元につきまして、今期の配当は前期に引き続き1株当たり50円とする予定です。また、2022年5月11日に発表した50億円、または300万株を上限とする自己株式の取得につきましては、買い付けが順調に進み、8月末に上限に達し終了いたしました。

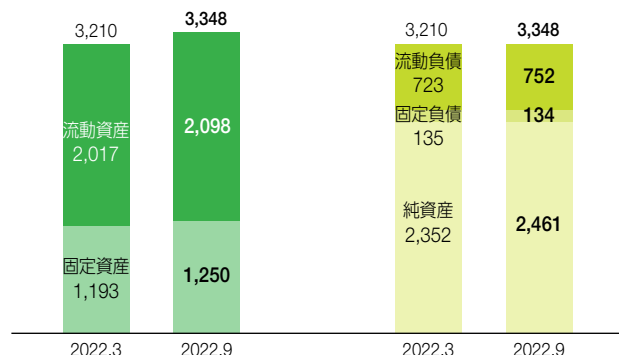
当中計の目的である収益構造転換の基礎固め再挑戦を着実に完遂させた後は、中長期的に営業利益率10%以上を維持し、さらに向上さ

決算情報の詳細は当社ホームページに掲載しています。

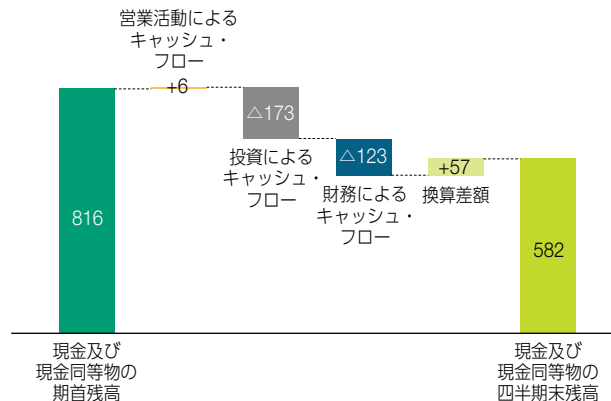
<https://www.ushio.co.jp/jp/ir/>

貸借対照表、キャッシュ・フロー（億円）

資産の部／負債・純資産の部



キャッシュ・フロー



せるための施策として、事業ポートフォリオ管理の高度化のために、事業単位でのモニタリング強化に取り組んでまいります。グループ横断で、事業別にROICを重要指標の一つとして取り入れ、より高度な事業ポートフォリオマネジメントを実行していくことを目指してまいります。また、2030年の目指す姿に向けた「5つの経営のフォーカス」に基づくESG経営推進の強化により、持続的な成長を支えるより強固な経営基盤の構築も進めるなど、当中計の先へと視野を広げながら次期中計につなげる布石を打っていきたいと考えております。

引き続き、経営戦略と財務・資本戦略を一体的に推進し、また株主・投資家の皆さまとの対話を積極的に行い、自らの責務を果たしてまいり所存です。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役
常務執行役員
CFO
経営統括本部長

朝日 崇文



株主さまとともに

株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行済株式総数	127,000,000株
株主数	17,589名

大株主の状況 (上位10位)

株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,198	15.43
株式会社りそな銀行	6,031	5.11
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,417	4.59
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,274	3.62
株式会社三菱UFJ銀行	4,248	3.60
ビービーエイチルクス フィデリティ ファンズ グローバル テクノロジー プール	3,396	2.88
RBC IST 15 PCT LENDING ACCOUNT — CLIENT ACCOUNT	2,675	2.26
牛尾治朗	2,665	2.26
朝日生命保険相互会社	2,450	2.07
GOVERNMENT OF NORWAY	2,427	2.05

※ 上記のほか、自己株式が9,092千株あります。なお、自己株式9,092千株には、役員向け株式報酬信託制度に係る信託が所有する当社株式230千株を含んでおりません。

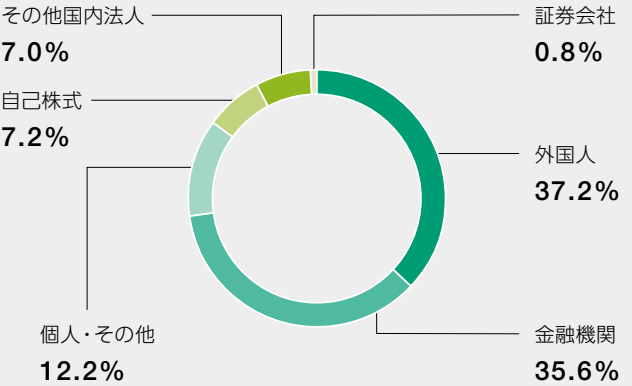
※ 持株比率は、自己株式9,092千株を控除して計算しております。

※ 大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株価の動き／株式売買高



株式の分布状況



株主メモ		
証券コード	6925	株主名簿管理人及び 特別口座管理機関
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ 公告いたします。 なお、中間配当制度は採用しており ません。	〈郵便物送付先〉 〈電話照会先〉
1単元の株式数	100株	0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土日休日を除く)
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※ やむを得ない事由により上記URLにおいて公 告することができない場合は、日本経済新聞に 掲載いたします。	〈ホームページURL〉 https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/ 〈よくあるご質問(FAQ)〉 https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal



各種お手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 (証券会社の口座に記録された株式)	特別口座 (証券会社に口座のない株式)
- 住所・氏名等の変更 - 単元未満株式の買取請求 - 配当金の受取方法の指定 - 相続	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
一般口座への振替	—	
支払期間経過後の配当金		三井住友信託銀行

会社概要

設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員 (2022年9月30日現在)

代表取締役社長	内藤 宏治
代表取締役	川村 直樹
取締役	神山 和久
取締役	朝日 崇文
社外取締役	金丸 恭文
社外取締役	橘・フクシマ・咲江
社外取締役	佐々木 豊成
社外取締役	松崎 正年
取締役(常勤監査等委員)	小林 敦之
社外取締役(監査等委員)	杉原 麗
社外取締役(監査等委員)	須永 明美
社外取締役(監査等委員)	有泉 池秋

従業員数 (2022年9月30日現在)

ウシオ電機本体	1,720名
国内連結子会社	695名
海外連結子会社	2,972名
合計	5,387名

発行:ウシオ電機株式会社
コーポレートコミュニケーション部
〒100-8150 東京都千代田区丸の内1-6-5
TEL: 03-5657-1007 FAX: 03-5657-1020
<https://www.ushio.co.jp>



公式facebook
<https://www.facebook.com/ushio.group/>



オフィシャルWebサイトも
ご活用ください

統合報告書(Ushio Report)／日本語版



<https://www.ushio.co.jp/jp/ir/library/ushioreport/>

投資家情報



社長メッセージや決算資料など、
様々な情報を掲載しています。



<https://www.ushio.co.jp/jp/ir/>

サステナビリティ



環境保全、社会貢献、安全への
取り組みなど、様々な情報を
掲載しています。



<https://www.ushio.co.jp/jp/sustainability/>



この印刷物は、環境に優しい用紙と、ベジタブルインキ
を使用しています。